

融合プロジェクト発表会

7月18日(木)に、本校第1体育館で、3年生が「探究」において、2年次の3学期より取り組んできた「融合プロジェクト」の発表会が行われました。

融合プロジェクトとは、文系フロンティアコース、普通コース文系、普通コース理系、理数科の生徒がクラス横断で一つのグループを組み、能登の課題についての解決策の提案を行うものです。今年度は令和6年1月1日に起こった能登地震からの復興をテーマに、石川県創造的復興プランから考えた具体的な実行プランを提言としてまとめました。

発表は、それぞれのグループが、1年生から行ってきた探究活動の集大成として、しっかりと発表を行いました。



～生徒の感想～

- 現状をしっかりと理解した上で、自分たちができることや、次また地震が起きる前にするべき行動を考えていてレベルが高いと感じた。また、提案が全て前向きで、この地震で経験したことを良い方向に活かそうとしているのがすごく伝わった。
- 一つの案に対して複数のパターンに分けたプランを提案しているところが、実現可能性がより高くなりそうでいいなと思った。
- 同じ「復興」というキーワードから多種多様なプロジェクトが生まれていておもしろかった。実現してほしいなと思うものも多かった。
- 視点を少しでも変えることで、見方が大きく変わるんだなと改めて感じた。
- 能登の復旧・復興のための色んなアイデアがあり、能登だけでなく他の地域で災害があった際にも活かされてほしいと思った。
- どの班も理想ばかりでなく、現実味のあることを発表していて、今の能登の現状に対して向き合っているんだなと感じさせられた。

課題研究 I (第1学年普通科)

自然科学研究 I (第1学年理数科)

「ポスター発表会」(7月8日)

文献調査で調べた偉人や科学者などのレポートを元にポスターを作成して、その発表会を行いました。初めてとあって、原稿の暗記、ポスターの見せ方、質疑応答などに苦戦する様子も見られましたが、どの班も練習の跡が伺え、今後の伸びが大いに期待できる発表でした。

～生徒の感想～

- 偉人の事だけでなく、その当時の環境についてもしっかりと紹介されていてとても分かりやすく面白かった。
- 名前は聞いたことがあっても、何をしたのか詳しく知らなかったのので、知ることができておもしろかった。
- とくどき補足を入れて、興味をひかせることも大切だと分かりました。
- ポスターに書いたことをそのまま読むのではなく、自分の言葉で付け足しながら発表できた。
- 偉人が残した功績から、偉人に関する雑学まであってよかった。

「ミハイル・ゴルバチョフ」「エイブラハム・リンカーン」「北里柴三郎」「津田梅子」「毛沢東」「ナポレオン・ボナパルト」「蒋介石」
「渋沢栄一」「伊藤博文」「西郷隆盛」「ヴェルヘルム・コンラッド・レントゲン」「トーマス・ウッドロウ・ウィルソン」「坂本龍馬」
「マハトマ・ガンディー」「マーティン・ルーサー・キング・ジュニア」「ジャンヌ・ダルク」「ナポレオン・ボナパルト」「吉田茂」
「織田信長」「孫文」 他



Research Communication I (第1学年理数科)

7月16日(火)に、本校視聴覚教室で Scientists (偉大な科学者たち) というテーマで10人の科学者を選び、各班がポスターを作って英語で発表をしました。入学して初めての英語プレゼンテーションとあって、原稿の暗記、ポスターの見せ方、質疑応答などに少し苦戦している様子も見られましたが、どの班も練習の跡が伺え、落ち着いて発表ができました。また聴衆も、発表をふまえた質問をすることができました。

発表テーマ一覧

- 「カール・フォン・リンネ」
- 「ルイ・パスツール」
- 「長岡半太郎」
- 「ジョン・ドルトン」
- 「湯川秀樹」
- 「アルベルト・アインシュタイン」
- 「マイケル・ファラデー」
- 「牧野富太郎」
- 「鈴木梅太郎」
- 「高峰讓吉」

